

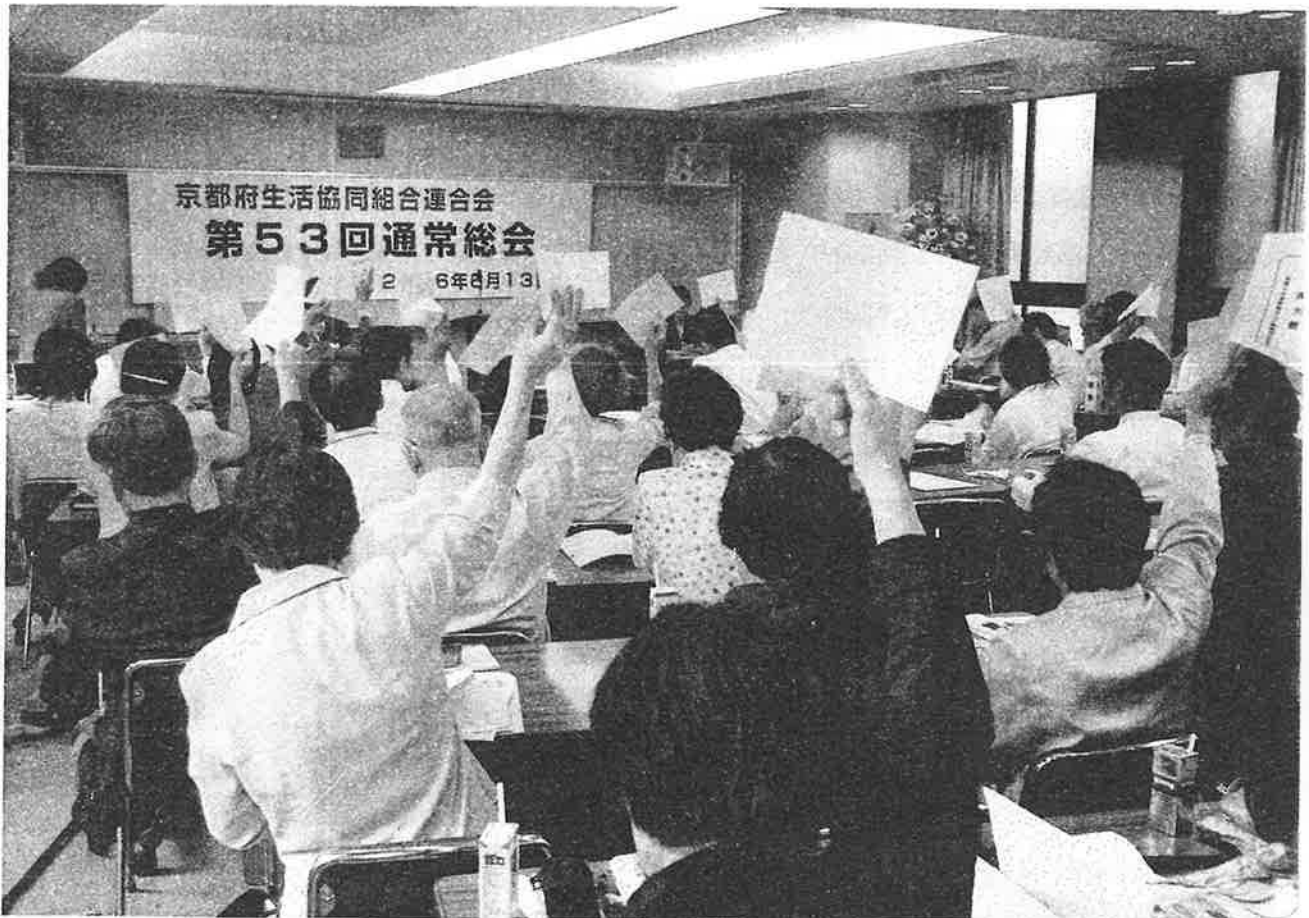
京都府生協連ニュース

＜第53回通常総会特集＞

2006年8月1日・No.60(通算126号)
京都府生活協同組合連合会
京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階
TEL. 075-251-1551
FAX. 075-251-1555

第53回通常総会開催

～全議案を可決・承認、役員23人を選出、総会アピールを採択～



6月13日(火)、池坊学園洗心館で開催しました。

＜お二人の来賓からご祝辞をいただきました＞



開会のあいさつをのべる
小林智子会長理事



京都府山田啓二知事代理
京都府商工部長 黄瀬謙治さん



京都労働者福祉協議会会長
木戸美一さん

京都府生協連第53回通常総会報告

6月13日(火)午後1時30分より、池坊学園洗心館で、「京都府生活協同組合連合会 第53回通常総会」を開催しました。

今総会の代議員総数は40人で、当日の代議員出席は38人(うち書面出席6)でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、76人の参加となりました。

小林智子会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府商工部部長 黄瀬謙治さん(京都府山田啓二知事代理)、京都労働者福祉協議会会長 木戸美一さんからは、それぞれご祝辞をいただきました。

また、オブザーバーとして、日本生協連関西地連事務局 鱈(すずき)一成さんにご参加いただきました。

あわせて京都府議会議長、京都市長、国会議員、各関係団体、各生協などからいただいた76通の祝電・メッセージをご紹介します。

小峰耕二専務理事が、第1~6号までの議案を提案し、新堀悟史監事が監査報告をおこないました。

今総会では、20人の理事と監事3人があらたに選出されました。さいごに、総会アピール「平和で安心して暮らせる地域と持続可能な社会を実現しましょう」を採択しました。



議長の今岡 徹さん
(大学生協京都事業連合)



議案の提案をする小峰耕二専務理事



監査報告をする
新堀悟史監事

〈お寄せいただいた祝電・メッセージ〉 (順不同・敬称略)

自由民主党衆議院議員
自由民主党衆議院議員
自由民主党衆議院議員
自由民主党衆議院議員
自由民主党参議院議員
民主党衆議院議員
民主党衆議院議員
民主党参議院議員
民主党参議院議員

山本 ともひろ
中川 泰宏
清水 鴻一郎
井澤 京子
小泉 顯雄
山井 和則
泉 ケンタ
福山 哲郎
松井 孝治

日本共産党衆議院議員
日本共産党参議院議員
日本共産党参議院議員
京都府議会議長
京都市長
京都府社会福祉協議会会長
京都市社会福祉協議会会長職務代理
京都商工会議所会頭
JA京都中央会会長

穀田 恵二
井上 さとし
市田 忠義
酒井 国生
榎本 頼兼
立石 義雄
川口 東嶺
村田 純一
中川 泰宏

■全議案が可決・承認されました

提案された7つの議案について、1～6号の各議案は可決・承認されました。7号議案 役員選挙については、立候補者数が定数内であったため、役員選挙管理委員会の石角委員長より、役員選挙規約にもとづき全員を無投票当選とする旨が報告されました。

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2005年度 活動報告・決算報告承認の件	37	0	0	37
第2号議案 2005年度 剰余金処分案承認の件	37	0	0	37
第3号議案 2006年度 活動方針・活動計画および予算決定の件	36	1	0	37
第4号議案 2006年度 役員報酬限度額決定の件	36	0	1	37
第5号議案 会員規約一部改正の件	37	0	0	37
第6号議案 議案決議効力発生の件	37	0	0	37
第7号議案 役員選挙				

※出席代議員の合計38人(本人出席32 書面出席6)うち議長1人は採決に参加せず。

<今回退任されたみなさん>

- 理事 大関健朗さん(乙訓医療生協常務理事)
- 理事 黒岩卓美さん(生協エル・コープ専務理事)
- 理事 寺尾正俊さん(前京都教育大学生協専務理事)
- 理事 行松龍美さん(やましろ健康医療生協専務理事)



左より、退任の挨拶をする行松さん、大関さん、寺尾さん(立っている人)

【新任役員のみなさん】

今回、新しく理事になられたのは次の6人の方がたです。



理事 小野留美子さん
(乙訓医療生協専務理事)



理事 金谷薫さん
(全京都勤労者共済生協専務理事)



理事 高田艶子さん
(員外)



理事 中本式子さん
(生協エル・コープ理事長)



理事 羽賀省二さん
(教育大学生協専務理事)



理事 廣瀬佳代さん
(員外)

【京都府生協連2006年度役員体制】(6月13日現在)

- <会長理事>小林 智子(京都生協理事長)
- <副会長理事>平 信行(京都大学生協専務理事)
- <専務理事>小峰 耕二(京都生協常務理事)
- <常任理事>小川 正(京都府庁生協常任理事<総括>)
- 佐藤 京子(やましろ健康医療生協理事長)
- 沼澤 明夫(大学生協京都事業連合専務理事)
- <理事>粟飯原 利弘(龍谷大学生協専務理事)
- 大塚 正文(京都橘学園生協専務理事)
- 小野 留美子(乙訓医療生協専務理事)
- 金谷 薫(全京都勤労者共済生協専務理事)
- 鎌部 千津子(京都生協常任理事)
- 酒井 克彦(立命館生協専務理事・池坊学園生協専務理事)
- 吹田 知久(京都府医大・京都府大生協専務理事)
- 高田 艶子(員外)
- 田中 弘(京都医療生協専務理事)
- 中本 式子(生協エル・コープ理事長)
- 羽賀 省二(京都教育大学生協専務理事)
- 廣瀬 佳代(員外)
- 松浦 順三(京都工芸繊維大学生協専務理事)
- 三宅 智巳(同志社生協専務理事)
- <監事>島田 浩(京都府庁生協監事)
- 新堀 悟史(乙訓医療生協理事)
- 佃 政治(京都大学生協常務理事)

■ 12人の代議員・理事・オブザーバーから発言がありました

当日は、12人の代議員・理事・オブザーバーから、食の安全・くらしの安心、大学生協の活動、医療制度改革と経営への影響、平和の取り組みなどについて活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、小峰専務理事は「この1年の多様な活動について報告をいただいた。これらを連合会の活動のなかにしっかりと受けとめさせていただいて、みなさんがたといっしょに、この一年、活動をすすめてまいりたい」とのまとめをおこないました。

【総会発言の要旨】

1. 京都生協 右近裕子 代議員

「食の安全・くらしの安心の取り組みについて」



「食の安全」の分野では、安全安心でたしかな商品を提供するためのしくみづくりに取り組みました。「品質保証部」を設置し、京都生協開発商品の産地工場点検の強化や情報開示をすすめました。鶏卵の品質向上にも取り組み、共同購入での冷蔵配達を実施し、11月から鶏卵トレーサビリティシステムをスタートさせました。米国・カナダ産牛肉のBSE問題にかんして、食品

安全委員会等に意見書を出し、意見交換会にも参加しました。12月に制定された「京都府食の安心・安全推進条例」の検討過程においても積極的に意見を出し、学習をすすめました。

「くらしの安心」の分野では、消費者被害の救済や発生の防止をはかるために、消費者団体訴訟制度を担う組織として「消費者支援機構関西」が設立され、京都生協も参加しました。地域でも消費者トラブルなどについての学習会が開催され、組合員のあいだで消費者としての自覚を再認識する場となっています。

◇ ◇ ◇

2. 生協エル・コープ 佐々木郁子 代議員

「2005年度の活動について」



2005年度の2つの活動について報告します。ひとつは、「ごくろうさんありがとうセット」の開発です。これは、1年たって卵を産まなくなった鶏1羽分の肉と卵をセットにしたもので、数に限りがありましたが、利用された方にはとても好評でした。親鶏は卵を産む機械ではなく生き物であること伝えたいために取り組みました。2つめは遺伝子組み換え問題です。ナタネの自生調査活動を05年度にひきつづき、今年もおこな

いました。輸入された遺伝子組み換え(GM)ナタネが、港で種がこぼれ落ちたり、製油工場に運ばれる途中でこぼれ落ちて、自生をして日本の在来種のなかに入るとかアブラナ科の植物に交配する可能性が出ているということで取り組みました。京都で24ヵ所調査をしましたが、自生はありませんでした。ただ昨年、千葉県で自生しているとの報告があり、今年、神戸で1ヵ所陽性が出ていると聞いています。わたしたちの身近にこういう遺伝子組み換えされたナタネが生息しているということは、気持ちが悪いくということと生態系への影響から心配だということがあります。

◇ ◇ ◇

3. 京都生協 松本敬子 代議員

「事業活動と組合員参加について」



昨年、京都生協では、牛乳の品ぞろえについて、約半年間をかけて組合員論議を重ねてきました。京都生協ではオリジナルの産直牛乳がありますが、約半分以上の組合員が利用をしていないとい

う状況でした。そこで、牛乳についての率直な意見を組合員にまず聞こうということになりました。全体として「生協牛乳は安全で安心で断然おいしいけれど、もう少し

し安かったらいいのにね」という声が多数ありました。真剣に論議を重ねた結果、産直牛乳を第1の柱として大切にしながら、低価格牛乳の品ぞろえをしていくことの一一致点を見いだすことができました。

新しく品ぞろえをすることになった牛乳は、まとまりの力で価格の引き下げを可能にすることができるコープきんき共同開発による牛乳です。品質と安全性を確保することはいうまでもありませんが、品ぞろえを充実させ、全国的に牛乳の消費が減少しているなかで牛乳の利用総量を少しでも引き上げていくことは大切なことです。

4. 立命館生協 西脇ありさ 代議員

「生協委員会の活動について」



今年度おこなった生協委員会を通じての活動報告をします。生協委員会は、1回生のクラスからクラス役員として生協委員を選出してもらって、月に1~2回の委員会開催で、生協の店舗にかかわる活動をしてきました。総勢約130名で、すべて職員さんといっしょに話し合いを深めてきました。どうしてこの活動をしたかという、大学生活で「何かやりきったという思いをもって4年間過ごしてほしい」と思ったからです。いま実現している活動としては、朝ごはんをみんなで食べたい企画をつくるチームの活動があります。5月末の1週間、朝のあいだだけ食堂を開放してもらって「朝ごはんバイキング」をおこないました。最初は不安でしたが、実際やってみたら60人ぐらいの学生や教職員が朝早くから来て食べていましたし、「野菜もたくさん食べて、ほんとによかったよ」という声もききました。また、「食堂メニューチーム」は利用者から意見を聞いて食堂のメニュー改善に取り組んでいます。そのほかには、生協委員からの提案で「立命グッズをつくるチーム」がつけられ、グッズのアイデアを募集したりしています。これまでの店舗(食堂)の活動のなかでつちかかってきた「自分の思いを伝える」「人の思いをくみとる」、そして「それを実現していく」、その楽しさ、うれしさというものを大切にこれからも活動していけたらいいなと思っています。「やってよかったな」「生協やるやん」っていつてもらえるような活動を、これからもどんどんしていきたいと思っています。

綾部の里山に行くことと、JA京都の村上さんのお宅におじゃまして、搾乳体験などもやらせていただきました。里山での竹トンボ作りは30分の予定が、夢中になってしまい、2時間近くにのびてしまいました。学生にははじめての体験であつたし、非常に喜んでくれ、すばらしい経験ができたと思います。キャンパス運営委員会のまわりの人間だけでなく、結構いろんな学生が参加してくれました。そのなかから新入生のサポートをする学生が出てきたり、総代や理事になってくれたりというかたちで、いままでまったく生協とはかかわりのなかった学生が、この農業体験ツアーを通じて生協にかかわってくれました。こんごも、生協で「こんなことしたい」「こんなことしてる」ということを大切に、活動を旺盛にしていきたいと思っています。



5. 京都府立医科大学・府立大学生協 石角敏明 代議員

「農業体験ツアーの取り組みについて」



うちの場合は医大と府大の2つの大学で1つの生協をつくっていますが、それぞれの大学でキャンパス運営委員会があります。府大の場合はここに生協職員も参加するのですが、理事や総代やいろんな学生にも参加してもらい、「生協ってこんなことしてるよ」とか「生協でこんなことしてほしいね」ということを話し合っ、いろいろな取り組みをやってきました。

去年8月の理事会合宿では、農学部で学生でありながらほとんど農業体験をしたことがない人もいたというので、どんなものかやってみようという体験企画をしました。

綾部の里山に行くことと、JA京都の村上さんのお宅におじゃまして、搾乳体験などもやらせていただきました。里山での竹トンボ作りは30分の予定が、夢中になってしまい、2時間近くにのびてしまいました。学生にははじめての体験であつたし、非常に喜んでくれ、すばらしい経験ができたと思います。キャンパス運営委員会のまわりの人間だけでなく、結構いろんな学生が参加してくれました。そのなかから新入生のサポートをする学生が出てきたり、総代や理事になってくれたりというかたちで、いままでまったく生協とはかかわりのなかった学生が、この農業体験ツアーを通じて生協にかかわってくれました。こんごも、生協で「こんなことしたい」「こんなことしてる」ということを大切に、活動を旺盛にしていきたいと思っています。



6. 京都橘学園生協 樋口八重子(オブザーバー)

「パソコン講座の取り組みについて」



京都橘大学パソコン講座の活動についてご紹介します。生協をとおしてパソコンを購入した新入生にたいし、先輩たちがアドバイザーとなつていっしょにパソコンを使えるようになる、という気持ちからはじまった講座です。大学の講義では教えてもらえないようなオリジナルの内容になっています。サポーターの勉強会をもうけたり、毎日夜8時過ぎぐらいまで打ち合わせをするなどして、実際の講座運営にのぞんでいます。今年の前期は週6コマ、計4週実施しています。講座の紹介として、広報活動をいろいろもうけております。受講生の希望もできるだけ多く取り入れようと思っています。受講生の中でも何度かアンケートをとっています。



勉強会をもうけたり、毎日夜8時過ぎぐらいまで打ち合わせをするなどして、実際の講座運営にのぞんでいます。今年の前期は週6コマ、計4週実施しています。講座の紹介として、広報活動をいろいろもうけております。受講生の希望もできるだけ多く取り入れようと思っています。受講生の中でも何度かアンケートをとっています。

7. 京都府庁生協 今西静生 代議員 「府庁生協の活動について」



組合員調査を昨年10月から11月にかけておこないました。府の職員は全体で6,000人弱、本庁には1,600人ぐらいいます。全体の調査と本庁の調査と2種類おこない、全体で2,400人、本庁で830人の回答がありました。それぞれ70項目ぐらいの非常にこまかなアンケートになりました。生活の様式が大きく変わっているなかで、パソコン、携帯電話は府の

職員の必需品になっています。一方で、伸びない収入のなかで昼食を切りつめている府の職員像が浮かび上がってきています。でも、海外旅行への思いは非常につよくて、やはりヨーロッパへ行きたいという思いはあいかわらず、前回の調査同様トップになっていますし、プラズマテレビや薄型テレビを買って生活をエンジョイしている職員もいることがわかりました。高まっていく生協への期待はあるが、なかなか読んでもらえない広報紙……という問題も浮かび上がってきています。こんごの課題です。

8. やましる健康医療生協 堀岡美和子代議員 「医療制度改革と生協の取り組みについて」



今回の医療制度改革の中身というのは、比較的所得の多い70歳以上の医療負担を現役世代並みに2割から3割にふやす。70歳以上の入院患者の食費・居住費の自己負担をふやす。2008年度からは70歳から74歳の窓口負担を現行の1割から2割に引き上げる。75歳以上の全高齢者から保険料を徴収する。国保加入の65歳以上の保険料を年金から天引きする。介

護療養型の医療施設を、現在38万床あるものを15万床に減らすというたいへんな内容なんです。

やましる健康医療生協では、5月28日に総代会を開き、いまの医療の問題を広く伝えようと、月1回の駅頭宣伝をおこなっているほか、組織委員会や平和委員会などで学習会や懇談会なども開いております。この問題は、われわれの明日の問題として重要になっています。いったん悪くなった制度を取り戻すことは本当にたいへんと思いますので、改悪されないよう、最後までがんばっていきたく思います。

9. 京都府生協連 田中弘 理事（京都医療生協専務） 「診療報酬引き下げと医療生協の経営について」



診療報酬の引き下げの問題、その影響について、ひとことご報告をしたいと思います。医療保険から診療所に支払われる診療報酬は1点10円ですが、4月におこなわれた改定は過去最大で、3.16%引き下げられました。京都医療生協で昨年の4月実績と今年の4月実績とを比較しましたら、診療報酬が2割下がり80%になっておりました。そういう非常にきびしい状況ですが、地域の人たちの診療にたずさわっている医療生協としては、この診療所を守っていく必要があるということで、全般的な経営の見直しをしてこれを乗り越えようとしています。5月27日に開かれました通常総代会では、経営という点ではたいへんきびしい状況にあるけれども、コンタクトレンズの装着・管理というものは医療であると、従来からそういう立場に立ってきたわけですが、ひきつづき、その立場や方針を堅持して、安心安全を基本とした供給につとめることを確認しております。



10. 府連生協活動推進委員 廣瀬佳代 (オブザーバー) 「男女共同参画の取り組みについて」



2005年度の男女共同参画委員会の活動とこんごについて、報告させていただきます。05年度は3つの企画が活動の中心になりました。KYOのあけぼのフェスティバルへの参加、学習会、J A女性組織協議会との懇談会です。いずれも継続して取り組

んでいる活動ですが、そのときどきの社会的な関心事をテーマに企画しています。

その他、委員会以外には、関西地連のジェンダーフォーラム懇談会での活動をしてきました。ここでは非常勤理事の機関運営の関わりや、次世代育成支援対策法の行動計画の作成状況や、育児休業の取得状況などの調査と、それらの報告書を作成するなどの活動をおこなってきました。

11. 乙訓医療生協 堀井輝夫 代議員 「憲法・平和の取り組みについて」



医療改悪のおおもととなっている憲法・平和の問題について、医療生協が取り組んだことを中心にお話をさせていただきます。乙訓医療生協では、昨年20周年をむかえたことと、戦後60年ということもあり、

いつもの平和行進、それから原水爆禁止世界大会への参加などもふくめ、積極的に取り組んできました。

今年はとくに「乙訓医療生協9条の会」をつくることになりました。医療生協には通信教育という制度があり

まして、僕も去年、「医療生協と憲法」の通信教育をうけました。日本の生協運動は、反戦・平和と国際連帯のなかで生まれたことを勉強しました。そして、軍国主義による弾圧と統制のなかで窒息させられた、こういう時期があるということも学びました。

戦後の生協運動が、憲法を暮らしに生かす足跡をしつかり残してきたということも、その勉強のなかで聞いてまいりました。暮らしのなかに憲法を生かすという理念を具体的な活動にしていく、このことが戦後の生協運動のなかでも大きく評価されているわけですから、この課題を堂々と胸をはってやっていきたい思います。

12. 京都生協 笠谷敏子 代議員 「平和の取り組みについて」



昨年は、被爆・終戦60周年の節目として「京都生協平和への願い」にもとづく多彩な企画や行事が展開されました。平和・憲法リーフレットを配布し、『父と暮せば』の映画上映と黒木監督を招いての大学学習会も

開催して、平和についてみんなで考えあいました。ピースアクション企画が各地で開催され、ヒロシマ行動には子どもたちの参加もふえて年齢層も幅広く、バス2台・77人と京都生協としては近年にない大参加になりました。わたしも参加して、広島のまちをはじめ見て、非常に感慨深いものがありました。

また、5年に一度のNPT（核不拡散条約）再検討会議の年でもありましたので、組合員の募金という総意のもとに代表2人をアメリカ・ニューヨークに派遣しました。そして地域でもNPTやヒロシマ行動の報告会をかねた平和学習交流会がさかんに開催されました。この1月には、「ズッコケ三人組平和を語る」と題して児童文学

者の那須正幹先生を招いて、平和活動交流会を開催しました。

「平和」という言葉を出すことにためらう組合員さんもふえてきているのは事実です。平和・憲法リーフレットのなかにあるように、「どういうふうにしたら平和をつくれるのかな?」「どういうことが平和であるのかな?」ということの学習、そういうことからはじめないといけないなと痛感した一年でもありました。



■総会アピールが採択されました

総会アピールは、鎌部千津子理事が提案し、全体で確認しました。



総会アピールを提案する
鎌部千津子理事

京都府生活協同組合連合会第53回通常総会アピール

平和で安心して暮らせる地域と持続可能な社会を実現しましょう

本日、京都府生活協同組合連合会は第53回通常総会を開催し、京都における生協への加入組合員数が64万8000人を数え、地域・学園・職域・医療・共済など多くの分野で、旺盛な事業と活動をすすめていることを確認しました。

わたしたちは、この一年、被爆・終戦60年という節目の年にあたって、NPT（核拡散防止条約再検討会議）への代表派遣をはじめ、平和をもとめる取組みを多彩にすすめてきました。また、食品安全の社会システムの実現へむけて、各会員生協での品質管理の強化や組合員の学習とあわせて、自治体等への政策提言・意見提出をすすめ、こうした活動の積み重ねのなかで、昨年末に「京都府食の安心・安全推進条例」を制定することができました。今国会では、一昨年に成立した消費者基本法をうけて、消費者団体訴訟制度があらたにつくられることとなり、消費者権利の実現へむけて、大きく前進することができました。

しかし一方で、アメリカ産牛肉の輸入をめぐる問題をはじめ、「食の不安」をつのらせる出来事はいぜんとして後をたちません。悪質リフォームや架空請求など、消費者被害もふえつづけています。こんにち景気は回復傾向にあるといわれますが、一部の企業、一部の地域に限られており、多くの消費者にとって生活と健康への不安は大きく、社会的な格差がひろがっています。子どもと高齢者をめぐる痛ましい事件があいつぎ、「社会荒廃」現象が大きく立ちあらわれています。

このようななかで、消費者の願いとは逆に、医療制度・年金制度の改悪と増税、そして消費税の大幅な再々引上げへむけた準備がすすめられています。自衛隊のイラク派兵は継続されたままであり、米軍と自衛隊との一体化が追求されるなか、憲法9条を改定し、日本を「戦争をしない国から戦争ができる国」にするという国のあり方を根本から変える動きがつよまっています。戦後の生協活動は、「平和とよりよい生活のために」を合言葉に、あたらしいスタートを切りました。このことの意義をいまこそ、たしかめあおうではありませんか。わたしたち一人ひとりが、憲法や社会保障、医療や税のあり方などについて学び、「人間らしい暮らしとは何か」について考え、話し合うことを大切にしようではありませんか。

2005年、日本の社会ははじめて人口減少に転じ、こんご急速に「少子高齢社会」へむかっていきます。地域・学園・職域・医療・共済など、それぞれの生協の事業と組織運営をめぐる環境も、組合員の暮らしも、大きく変化していこうとしています。こうした歴史状況をしっかり見つめながら、生協活動のよりいっそうの強化と創造にむけて、組合員と役職員がともに力をあわせていかなければなりません。21世紀を真に「平和で、人間らしい健康で生き生きとした暮らしを実現する、持続可能な社会としていく」ために、京都における生協活動をゆたかに発展させるとともに、地域社会の一員として、さまざまな団体・個人と手をつなぎ、連帯の輪をひろげていきましょう。

2006年6月13日
京都府生活協同組合連合会